



令和5年度 日本エースピジョン賞

全国
1位

“文殊連峰号”

22RB04092 BC ♀ 杉田政雄鳩舎作翔

23年春北陸南連盟Rg 437K1,180羽中総合34位 入賞率 0.02881

北陸南連盟地区N 614K 552羽中総合 5位 入賞率 0.00906

北陸南連盟桜花賞912K 115羽中総合 2位 入賞率 0.01739

合計入賞率 **0.05526**

生まれ

- ・生年月日 …… 22年6月3日
- ・順番 …… 3番仔

鳩体

- ・大きさ…中
- ・主翼の形状…キレあり
- ・体型…普通
- ・腰の厚み…普通
- ・筋肉…柔らかい
- ・ベスト時の重さ…軽い
- ・目の色…柿
- ・バランス…中間
- ・性格…おとなしい

作出の意図

- ・距離適性 …… 1000K
- ・展開 …… 分速1200~1300m台
- ・タイプ …… 安定型



* 令和5年度KBDB会長賞連盟 1位

- ▶ 18RB03637 BC 杉田政雄 作
- ▶ 16RB03674 BC 杉田 作翔 18年GP800K総合21位
- ▶ 13RB06162 BC 杉田 作翔 桜花賞1000K総合18位 “文殊基礎鳩”の近親
- ▶ “文殊花いちエース”(シルバー・エクセレントP/18年日本AP賞全国1位)の同系 × “エクセレントNエース”(シルバー・エクセレントP/下記07RB04141の娘)
- ▶ **11RB04378 BC 杉田 作翔**
- ▶ **14年KBDB会長賞中部地区 3位** 桜花賞1000K総合 5位他
- ▶ NL09-1137711 バーデンブルフ 作
- ▶ “ロリス”(ベルビナンN15位/“ド・ヴィットバイク”の近親系)の直仔
- ▶ 07RB04141 BC 杉田 作 代表種鳩
- ▶ 01RB02719 (04年桜花賞1000K総合優勝・CH総合 3位) × 01RA00747 (05年稚内GN1000K総合優勝“胎田稚内キングIII”の全兄弟)
- ▶ “夢いちりん” 16RB03629 B 杉田 作翔
- ▶ 18年稚内GN1144K総合優勝、連合会銘鳩賞
- ▶ 10DA36994 BCW 牛久保康浩 作
- ▶ (98年羽越ブロック連盟平戸GN1000K総合優勝 × 00年東日本稚内GN1100K総合優勝) × 03年東日本CH900K当日総合 3位
- ▶ 08RB05297 B 能村 昭 作翔 稚内GN1100K連盟10位
- ▶ “田中53号”(稚内GN 2回/“文殊基礎鳩”の孫)の直仔 × “玄95”(94年、18年日本AP賞全国 1位)の同系の孫
- ▶ 15RB01969 BC 杉田政雄 作
- ▶ 10DA46605 BC 大前俊一 作
- ▶ “グランディア号”(04年東日本稚内GN総合優勝)の直仔
- ▶ 13RB05046 BC 坪川修三 作翔
- ▶ 桜花賞1000K総合10位・CH総合28位
- ▶ “パルセロナ・ランボーII”(04年パルセロナIN優勝)の孫 × “ベストターレン”(ボルドーN優勝の父)の直仔掛け

賞全国1位の 南連盟・福井県連合会)



目の「日本一のレース鳩」誕生——！

りに稚内GNを制覇——と“レジェンド級”の実績まで誇る実力派
年、日本AP賞の規程をクリアした「ゼネラリスト」を今回は“2羽も”
えば、地元鳩界2羽目の全国1位鳩「雨姫」の父親を作出しており、
レース鳩」の誕生に裏には、血統の織りなす“輪廻の物語”があった！

「AP男」と一騎打ち！

日本鳩レース界の隆盛期を支えてきた笹川良一会長。同氏が辞任した92年、森田浩光新会長の下“時代の象徴”として誕生したのが「笹川賞」、「総理大臣賞」に続く第3のエースピジョン（以下AP）——「日本エースピジョン賞（以下日本AP賞）」であった。

対象レースは3つ。「Rg（公称400K以上）」、「地区N（公称600K以上）」、「桜花賞（公称800K以上）」あるいはGN（公称1000K以上）で、前述の2つのAPタイトルをミックスした内容だ。ただしRgと地区Nが「5%内」、桜花賞あるいはGNは「10%内」



作翔者・杉田政雄鳩舎(北陸南連盟・福井県連合会)
のプロフィール

- 鳩歴：63年 ■レース歴：58年
- 鳩舎規模：種鳩13坪150羽 選手鳩7.5坪150羽
- 代表翔歴：GN総合優勝、桜花賞総合優勝3回、地区N総合優勝3回、Rg総合優勝、ブロックCH賞
- 主力系統：自鳩舎飛び筋、飴田稚内系、フェルトマン父子系、ニューー文字系

という申請条件が加わっており、難易度はより高いものとなっている。「距離適性＝血統」とするブラッドスポーツの概念を覆すような規程であり、全レースに強いというまさに“究極のレース鳩”を追求したものだ。ゆえに日本AP賞は「レース鳩の最高賞」と呼ぶにふさわしいタイトルなのである。

「会長賞」、「KBDB会長賞」と異なり、授賞範囲は10。規程をクリアしたレース鳩を対象に3レースの合計入賞率の低い順から1位から10位までを決めていく、いわゆるランキング方式での顕彰だ。毎年約10万羽がこの賞レースに参加しているものの、入賞率決戦までもちこめるのは全国で20羽に到達

連盟長のコメント

北陸南連盟長 藤井孝彦氏
(福井県連合会)



連盟2人目の快挙！

今年は私と杉田(政雄)くんが日本AP賞の規程をクリアし、2人とも受賞に至りました。うち杉田くんのトリは見事全国1位に輝いたようですね。18年の吉田(憲二)さんに続き、北陸南連盟2人目の快挙です。おめでとうございます。しかも(全国1位には)私の“クリスタルキング”の血が絡んでいたようで、本受賞にお役に立てたことも非常にうれしく思います。杉田くんは鳩レースに対してとても熱心ですし、今年のブロックCH賞にも選出されています。次は日本優秀鳩舎賞や全日本ゼネラルCH賞での受賞を期待しています。

するか否か……。時にはベストテンすら揃わない年もあり、ブラッドスポーツの法則を超越できるような鳩作りがいかに難しいかを物語るデータだ。

令和5年度は21羽が日本AP賞の規程をクリアし、授賞のボーダーは例年並みである「9%台」となった。頂点は「5%台」をマークした“東西の2羽”による一騎打ち！日本AP賞最多羽数を誇る“AP男”及川茂鳩舎(新日本)の最新傑作品を相手に西日本が軍配

杉田政雄鳩舎(福井県) 作翔の「22RB04092」がわずか「0.1%」の差で「日本一のレース鳩」の座に輝いた。同鳩舎が所属する北陸ブロック連盟からの全国1位

令和5年度 日本エースピジョン 作翔者・杉田政雄(北陸)

大ベテランの会心作が頂点に！ 北陸ブロック連盟3羽

レース歴60年に迫る大ベテラン・杉田政雄鳩舎(福井県)は総合優勝多数のキャリアをもち、しかも18年に地元鳩界で42年ぶだ。AP作りにも定評があり、KBDB会長賞、シルバーのみならず“ゴールド”エクセレントピジョンの認定鳩を世に輩出。そして23作り上げる。うち「22RB04092」は全国1位を授賞！ 北陸ブロック連盟3羽目の「日本一のレース鳩」誕生となった。杉田鳩舎といゆえにこのトリもその同系。しかも遡れば「ファースト——カモメエース」を生み出した銘血にも辿り着く。最新の「日本一の

は94年の「カモメエース(上乗秀雄鳩舎)」、18年の「雨姫(吉田憲二鳩舎)」に続く3羽目である。

23年度の日本一となった「22RB04092」は、6月生まれの3番仔ということもあってか、春のRgで2番手に帰還し、杉田鳩舎曰く「突然覚醒。しかも地区Nでは1番手で帰り、総合で5位に入賞した。会長賞では連盟で上位の成績だったことに加え、配合面——とりわけ母方の「バルセロナランボーII」の血の実績から「1000OK」狙いで作出したこともあり、「日本AP賞」獲得のエースとして桜花賞にエントリーされる。

レースは当日戦となり、「22RB04092」は見事、自鳩舎トップで帰還。もう1羽を引き連れての凱旋だったようだが、この瞬間に立ち会えた杉田鳩舎は「長距離レースで当日に期待のトリが1番早く帰ってくる」というピジョンスポーツ最大の醍醐味を味わったというわけだ。エースの打刻は2番目となったことで総合2位となったが、総合優勝は同着の1番手に譲つてのことであり、能力的には——と捉えて然るべきであろう。

APの輪廻が作り出す

「日本一のレース鳩」

作翔者の杉田鳩舎は高校3年生から鳩レースの世界に入り、そのキャリアは60年に近い。先輩の田中稔氏(元・金沢)に師事をして競翔家としての手腕を磨き、今年を含め2度ブロックチャンピオン賞に輝くなど、まごうことなき実力派だ。とりわけ長距離レースを十八番とし、18年には福井県下で2人しか実現できていない稚内GN総合優勝を成し遂げており、実績面からすればまさにレジェンド級である。そしてその体現者——「夢いちりん」の孫鳩こそ、今回の「日本一のレース鳩」だ。

「CHからCHが生まれる」の法則が発動されたわけだが、その一方で気温32度の中で桜花賞を制した「01RB02719」の血が流れている。温暖化が進んでいく時勢から杉田鳩舎自身、「救世主」になると予感させた特別な1羽で、その読み通りに種鳩1年目で桜花賞の総合2位鳩を誕生。後に「01RA00747」(*05年北陸ブロック連盟稚内GN総合優勝 館田稚内キングIII「の全兄弟」とで黄金支配を形成し、シルバーエクセレントピジョンやKBDB会長賞など数々のAPを輩出していく。数ある系統を主力におく杉田鳩舎の中で「救世主」の血は紛れもなく「筆頭格」だ。

このように自鳩舎の本流も流れている中、北陸鳩界全体における勝ち筋が複数絡んでおり、ゆえに先輩2羽「カモメエース」と「雨姫」を誕生させた銘血(*デーゲンスの「ブラウ」近親の「78BB6476」も前述の「夢いちりん」を介して流れている。ちなみに「面影のある」雨姫に限れば、父方祖父の祖父である「文殊花いちエース(シルバーエクセレントピジョン)」經由で地元重鎮・藤井孝彦鳩舎(福井県)が誇る銘ブリーダー——「ド70(優勝20回/ヤンセン系)」の直仔掛けで作られた台湾のAP「クリスタルキング(90年6月開レース7位)」の因子が搭載。先代たちと確実な因果関係があるとは、杉田鳩舎もこの記事で初めて知ることになるはずだ。

同鳩舎はこの最高傑作に最短短7代前に登場する真なる基礎鳩——「文殊」の名をつけており、また彼の系統書には「鳩は70%血で飛ぶと信じています」と書かれている。APの輪廻はあくまで父方のみで織りなされているとはいえず、「ゆえに」この血統物語を存分に堪能できるはずだ。北陸鳩界3羽目となる「日本一」は、ブラッドスポーツの神髄と醍醐味がつまった「申し子」といったところであろう。



“ハリーシャンテリー75号”
 22MM00375 BC ♀ 及川 茂鳩舎作翔
 23年春東京中連盟Rg 389K704羽中総合 6位
 入賞率 0.00852
 東京中連盟地区N 568K457羽中総合13位
 入賞率 0.02845
 東京中連盟桜花賞980K154羽中総合 3位
 入賞率 0.01948



22MM00375 及川 茂鳩舎
 (東京中連盟・新日本連合会)

合計入賞率 **0.05645**



***令和5年度KBDB会長賞連盟2位**

- ▶ 18MM03280 BC 及川 茂作
同腹の直仔/22年秋茨城連盟Rg400K2,846羽中総合優勝
- ▶ “キングハリー” NL16-1663903 BC ホーイマンズ作
“ハリー”(WHZB長距離ナショナルAP賞1位)の直仔×孫
異母兄弟/“ニューハリー”(万羽レース優勝2回他)
- ▶ “ファイアーハリー” NL15-1850075 BC ヤン・ホーイマンズ作
上記“ハリー”×“ハリー”全姉の娘
- ▶ “スーパースターシャンテリー号” 13MM00747 BC 及川 茂作翔
14年春GP800K3,238羽中総合6位
- ▶ “シャンテリー48号” 08MM03048 B 及川 茂作
“シャンテリースプリンター号”×“シャンテリーホープ号”
全兄弟/日本AP賞全国2位2羽(06年、10年)
全姉の娘/16年日本AP賞全国1位
全兄の孫/17年日本AP賞全国1位 & KBDB会長賞全国優勝
- ▶ B09-6241232 BC ベルクモース作
“スプリント”(オリンピック短距離部門代表)×“スプリント”の孫
異母兄弟の娘/17年日本AP賞全国1位 & KBDB会長賞全国優勝

▲AP男 ますますも頂点に肉薄!
 最新はハリー系AP!

真に優れたレース鳩とは、速度い
 レース鳩だ。総合優勝至上主義の時代
 にこの本質に気づき、APを重宝して
 きた**及川 茂鳩舎(新日本)**は、日本
 優秀鳩全賞9回、全日本ゼネラルCH
 賞15回——と現在の強さを物語ってい
 るであろう。そしてAPタイトルの最
 高峰「日本AP賞」と「スパーエクス
 レントビジョン」では最多受賞及び認
 定されており、とりわけ前者にいたって
 は20羽以上と圧倒的だ。当初は同鳩舎
 の代名詞「若大将系」がAP作りを担っ
 ていたものの、05年の日本のレース鳩
 “怪物シャンテリー号”の誕生で一変。

ヤンセン系とフーベン父子系の雑種強
 勢支配となる「ジャンテリーシルバー
 号”×”ズプリンター号”を基礎カッ
 プルに置く「及川シャンテリー系」に
 バトンタッチされ、「APファクトリー」
 の如く、「真に優れたレース鳩」が量産
 されていたことは有名であろう。

そして今春、日本鳩界ナンバーワン
 の“AP男”は2年連続で日本AP賞
 の受賞鳩を誕生させた。この最新作は
 自身にとって6年ぶりとなる「日本一
 のレース鳩」の称号に肉薄する入賞率を
 叩き出すほど。ところが前年の「ズビー
 ドシャンテリーBCW号(※全国3位/
 規程3レース全ベスト5以内他)」と比
 べると、翔歴にインパクトがないと評価
 していた及川鳩舎とあって、頂上対決
 に至っていたとは夢にも思わなかったで
 ある。とはいえ全国2位に選出され
 た「22MM00375」はRgと桜花賞
 で総合シングルをマークし、春の全6
 レースでみればなんと5レースが3%
 内だ。一方、入賞率では「0.1%」程
 度だが、前年の全国3位より上回って
 おり、順当なランキングだと言えよう。

そして「22MM00375」にはもち
 ろん「及川シャンテリー系」で作られて
 いる他、ホーイマンズの「ハリー」、マル
 セリスの「ズプリント」というヨーロッ
 パ最高峰のスーパーAPの血も流れて
 おり、とりわけ日本鳩界でブーム中の
 後者の血はかなり濃厚だ。鳩レースは
 ブラッドスポーツである。“AP男”の最
 新傑作は、まさにそのお手本であった。

“マリン・エース”

21HA04211 BC ♀ 飛田輝明鳩舎 作翔

23年春茨城連盟Rg 363K4,501羽中総合200位

入賞率 0.04443

茨城連盟地区N 556K3,692羽中総合 36位

入賞率 0.00975

茨城連盟桜花賞905K 767羽中総合 5位

入賞率 0.00652



21HA04211 飛田輝明鳩舎 (茨城連盟・茨城北連合会)

合計入賞率 0.06070



受賞羽数は歴代2位に昇格! 新たなAP男誕生か?!

今日日本鳩レース界で最も勢いある

レースマンといえば、間違いなく飛田輝明鳩舎(茨城北)であろう。15年に日本AP賞の受賞鳩を誕生させてからの「日本最優秀鳩舎賞」の選出といった協会タイトルラッシュはあまりにも有名だ。ジッターを系源とする基礎ラインに限らず、茨城県下で実績ある勝ち筋を積極的に取り込んだ鳩作りを行っており、その鳩質は掴んだものなら喰らうようなレベルに統一されている。ゆえに今年も「日本優秀鳩舎賞」の受賞を決め、ハイライトである関東三大長距離レースではCHとGNでベスト

テン入りを達成。うち東日本CH総合5位の「21HA04211」は、日本AP賞の規程をクリアする。しかも全国3位での受賞となった。

- *令和5年度KBDB会長賞連盟1位
- 20HE02416 BC 西村一夫作 飛田鳩舎種鳩
- B14-3157367 B ガビー・ファンデナベール作
- “コロネル”(プリクセム)の父)全兄の直仔×(上記“プリクセム”の孫×“プリクセム”の娘)
- B18-2096618 BC デブクワ兄弟作
- “ニューイーグルアイ”B09-2214886 BC E・ランブル作
- “イーグルアイ”(オリンピックオールラウンド部門代表)の直仔
- B14-2237458 RC デブクワ兄弟作
- “マックス”×(ジュリアス)×“ボレ・ワッテンJ”(全姉妹)
- 17HA00006 BC 飛田輝明作
- “マリン・ナショナル・レオ”15HB12466 BC 飛田作翔
- 16年地区N600K2,936羽中総合2位
- 13年東日本稚内GN1000K総合優勝の異母弟×
- 00年総理大臣賞北関東地区1位の娘
- 同系/15年日本AP賞全国2位
- 13HA00137 BW 一文字ロフト作 ファンブリアーナ系
- 全兄/バルセロナ・フィリップ”(12年バルセロナIN優勝)

これに対し母方は「直」ではないもののナナメの「バルセロナ・フィリップ」は、歴代最高分速ということでバルセロナでの一発に注目しがちであるが、ひもを解いていけば、ナルボンヌとマルセイユで1%内入賞、ポーとベルピタンでは10%内に入賞しており、APとしての能力を備えているのは、明らかである。また母方祖父の「マリン・ナショナル・レオ」は総理大臣賞北関東地区1位の孫鳩であり、また一族からは日本AP賞までも誕生——と語るべきだ。さて飛田鳩舎はこれで「AP男」及川茂鳩舎に次ぐ受賞羽数(*5羽)となった。「AP鳩舎力」にもはや異論はなし、である。



“茜キッドスター”

21OZ07542 BCWP ♀ 星輝雄鳩舎作翔

23年春北宮城連盟Rg 416K1,205羽中総合16位

入賞率 0.01328

北宮城連盟地区N 570K 763羽中総合22位

入賞率 0.02883

北宮城連盟桜花賞775K 47羽中 総合優勝

入賞率 0.02128



21OZ07542 星輝雄鳩舎
(北宮城連盟・仙北連合会)

合計入賞率 0.06339



*令和5年度KBDB会長賞連盟1位、会長賞
シルバー・エクセレントビジョン

- 20OZ04470 BC 高橋正則作
- NL08-4205580 BC ヘルマン・プリンクマン 作翔
- 11年バルセロナN1306K7,046羽中611位
- “ヘルマナートル”(01年バルセロナIN1306K14位)の孫
- “加護の茜号”07OZ05176 DCW 高橋 作翔
- 10年桜花賞900K総合優勝他
- ブリュッヘマン兄弟系×ヤンセン、デルパール各系
- 19MA01605 BC 鈴木信義 作
- “エスキッド三世”15MA06235 BC 鈴木 作翔
- 16年東日本CH総合88位、17年同総合41位
- (“キッド号”近親×09年日本AP賞全国1位)×
- 06年東日本種内GN1000K総合優勝の孫
- “マニワンヨースト号”17MA02354 BC 鈴木 作翔
- 18年KBDB会長賞連盟1位、東日本CH総合4位
- 鹿島成浩作(“ミスターベルビナン”×“ミス・マニワン”)×
- “ヨースト”(03年ベルビニャンIN優勝)の孫

今年、北宮城連盟設立後待望の日本AP賞が誕生した。新たな歴史を築いたのは、星輝雄鳩舎(仙北)作翔の「21OZ07542」である。ヒストリーメーカーは21年生まれの成鳩で、前年の全滅レベルの春R8で総合9位のスピードで帰り、かつ肉落ちを全くしていなかったことから、23年の春は「対桜花賞」のエースに任命。その期待度は周囲に「桜花賞制覇」を宣言してしまうほどであった。短距離はジャンプし、R8から参戦するといきなり自鳩舎1番手で帰還し、総合16位。続く地区Nは3番手に帰るも総合22位に入賞し、桜花賞どこ

桜花賞のエースは期待以上！
連盟初の日本AP賞 “ここに誕生！”

るか中距離から主役級の活躍を見せる。そして本命の最終レースは発情しないよう、飼育環境を分離とし、運動量の強度を高めたことで、「21OZ07542」のみ卵なしで持ち寄ることができた。そして結果は、桜花賞どころか併催の東北東ブロック連盟CHレースでも総合優勝！期待のトリがトップに帰ってくる……。しかも父方祖母の「加護の茜号」は今亡き鳩友・高橋正則鳩舎の最高傑作で、絶対に飛ばしたかった「血」ということもあり、ビジョンスポーツ最大の醍醐味にさぞ酔いしれたことであらう。

「21OZ07542」には、遺作以外にもプリンクマンの「ベルマナートル」、コープマン父子の「ミス・マニワン」(*07年サンパンサンN最高分速)、長距離王の異名をもつデスマター&レスティアーンの「ヨースト」と世界的超銘鳩の血が流れている。うち「ヨースト」にいたっては、今欧州鳩界で注目されている「DRD4遺伝子」が優秀な可能性が高いと言われ、その評価と実績が桁違いであることは有名だ。毎年INレースでの活躍鳩を生み出し、今年もバルセロナでN2位に入賞。その「バルカ072」は「ヨースト」の曾孫だ。一方、母方には日本AP賞全国1位の血がダイレクトに絡んでおり、ブラッドスポーツ特有の「輪廻」も見られる。これまでと同じく、歴史的快挙は「やられた」。然るべき銘血バードでもたら

“スーパーCH074”

21RB07074 BC ♂ 藤井孝彦鳩舎作翔

23年春北陸南連盟Rg 451K1,180羽中総合27位

入賞率 0.02288

北陸南連盟地区N628K 552羽中総合 4位

入賞率 0.00725

北陸南連盟桜花賞926K 115羽中総合 4位

入賞率 0.03478



21RB07074 藤井孝彦鳩舎
(北陸南連盟・福井県連合会)

合計入賞率 0.06491



*令和5年度KBDB会長賞連盟2位

- 18RB04949 BC 藤井作
- 16RB00091 BC 藤井作
- “雷神号” 06RB02582 BC 藤井作翔
桜花賞1000K総合3位、5位、9位 シルバーエクセレントP
“クライネンリヒテ”(ポルドーN優勝“コース”の直仔)×
 (“ヘルマナートル”全兄弟×下記“スーパードイフ”)
異母妹の孫 / 18年日本AP賞全国1位
- “プラチナ” B10-5182427 BC シュロイルス・ハウベン作
“アマンツオ”(バルセロナN5位、サンパンサンSN10位)の娘
- “CH206” 12RB00206 BC 藤井作翔
桜花賞1000K総合4位、5位、61位 銘鳩賞 KBDB会長賞中部地区10位
母 / “マラトマン”の直仔×下記“スーパードイフ”)
- “ダークエンゼル” 16RB00152 BC 藤井作翔
17年地区N600K総合優勝、NPO会長賞中部地区1位
- “スーパー00” 13RB08300 BC 藤井作
“スーパードイフ”(バルセロナN1277K、サンパンサンN1177K各2回入賞)の直仔
- 15RB03484 BC 藤井作 上記“スーパードイフ”の孫

今なお生きる「北陸の伝説」!
然るべき銘血で2羽目の受賞!

藤井孝彦鳩舎(福井県)は、学生時代に「稲妻号」で二世風靡し、その後数々の金字塔を打ち立ててきた。北陸の生きる伝説である。しかし近年は大病を患ったことで、競翔家としての引退させざるやかれていたものの、今春、この負のイメージを払拭するかの如く、自身にとって2羽目となる日本AP賞の受賞鳩を作り出した。21年生まれのその成鳩は、Rgで総合27位、地区Nと桜花賞でそれぞれ総合4位を収め、前回(*09年)の「雷神号」より2ランクアップの全国5位での選出となっている。

藤井鳩舎はヨーロッパにアンテナを

張つて時代、時代の「旬」を追求し、その代表例として「プリンス」、「プリンス」、そして本賞の全国1位鳩にも流れる「ド70」は余りに有名だ。そして90年代からはオランダの最遠距離地帯の飛び筋に目を向け、CHやその直仔を積極的に導入。「21RB07074」はうち後者を象徴するかの如き血統構成だと言えよう。

オランダ北部に鳩舎を構え、バルセロナでは1300K地帯となるフェルテルマン父子のマラトンCH「スーパードイフ」の4重近親交配となっている他、同父子の看板鳩である「ゴース」と「マラトンマン」(*北部マラトン賞1位)の血も流れており、その「粋」を集めたような構造だ。うち「スーパードイフ」と「ゴース」は、18年に日本AP賞の全国1位を生み出しており、とりわけフェルテルマン父子の基礎鳩「353」の孫鳩である後者(*「ゴース」)の血は、藤井鳩舎を始めとする北陸鳩界、また関東でも勇躍、ベストテン入りが可能といわれてきた最西の地——群馬県で、東日本稚内GN総合9位、東日本CH総合5位を誕生させた。伝説は記憶に新しい。

フェルテルマン父子の飛び筋で紡がれた「雷神号」と「CH206」という藤井鳩舎自らが生み出したAPの直系でもあることから、他の受賞鳩同様に「CHからCHが生まれる」の法則もまた発動されていることがわかる。果たして「21RB07074」はあらゆる銘鳩、銘血を導入し、「血統」の重要性を熟知するレジエンドならではの、最新傑作品であった。



“エクセル レッドエースピジョン”

21XA05173 RC ♀ 米田幸由司鳩舎作翔

23年春ニュー近畿連盟Rg 474K2,163羽中総合40位

入賞率 0.01849

ニュー近畿連盟地区N 636K1,153羽中総合32位

入賞率 0.02775

ニュー近畿連盟桜花賞850K 267羽中総合6位

入賞率 0.02247



21XA05173 米田幸由司鳩舎
(ニュー近畿連盟・なんば連合会)

合計入賞率 0.06871



日本AP賞までに到達！
極まるスーパーチョコレイトの血

米田幸由司鳩舎(なんば)は、「C

HからCHを作る」を信条に——否、矜持とし、総合優勝やAPを数えきれないほどに生み出してきた。その核は、CHはCHでもN優勝を超えた最高分速鳩。とりわけチョコレイト色のスーパーCH「ネヴェ」の威力は驚異的であり、昨年には、米田鳩舎を近畿ブロック連盟初となる「日本最優秀鳩舎賞」に押し上げてしまったことは記憶に新しい。そして今春もその強さは据え置きで「日本優秀鳩舎賞」を2年連続で

受賞。かつ連盟のAP賞で1位を獲得した「21XA05173」が「日本AP賞」の規程をクリアし、全国6位に選出される。米田鳩舎は07年にも同賞を受賞(*全国5位)しており、今回が2羽目というわけだ。

血統構成は前回の「06XY07217」との血縁関係はなく、強いていうならば基点がスーパーCHであることのみ。さらに配合パターンも異なっており、今回の受賞鳩は「日本」の原動力——「ネヴェ」4重のインブリードだ。それゆえか、受賞鳩の羽色はチョコという表記ではないものの、それに限りなく近い「紅葉」となっている。

また本誌今号の表紙を飾っている桜花賞の総合優勝鳩を筆頭に数々のCHを輩出してきた総理大臣賞近畿地区2位に選ばれた「エクセル48」(*93年マルセイユIN2位「マルセイユ」の孫)との交配が、2回も母方に見られているだけでなく、父方祖母自身が連盟のスリーアベレージ賞の受賞鳩と、他の日本AP賞のように「AP」の血がまるで当然のようにダイレクトにめぐっている。また一族ともなればその倍以上に作られていることはいわずもななだ。

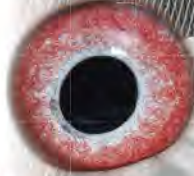
米田鳩舎の最新傑作もまた彼の信念——「CHからCHが生まれる」の体現者だった。

*令和5年度KBDB会長賞連盟3位 シルバー-エクセレントピジョン

- 16XY02078 チョコ 米田幸由司作
- 13XY03972 チョコ 米田作
 - 98XX06050 米田作
 - “ジェームスナショナル”(91年リモージュN2位) × “CHクレイル”(クレイルN優勝/フリス兄弟作翔)
 - 02XX09131 米田作 下記“ネヴェ”の娘
- 10XY03060 BC 米田作翔
10年秋菊花賞連盟5位、スリーアベレージ9位
下記“ネヴェ”の孫 異母兄弟/06年春500K総合優勝
- 19XY01356 チョコ 米田幸由司作
- 14XY03964 チョコ 米田作
母/“ネヴェ”(01年ベルジュラックN最高分速) × “エクセル448”(03年総理大臣賞近畿地区2位)
異父兄弟の孫/23年桜花賞850K当日総合優勝
- 05XY03837 チョコ 米田作 上記“ネヴェ”×“エクセル448”



“トリプル・キング”
22HK00269 B ♂ 吉野喜一鳩舎作翔
 23年春坂東野州連盟Rg 403K1,023羽中総合5位
 入賞率 0.00489
 坂東野州連盟地区N708K 264羽中総合3位
 入賞率 0.01136
 坂東野州連盟桜花賞934K 93羽中総合6位
 入賞率 0.06452



22HK00269 吉野喜一鳩舎
(坂東野州連盟・埼玉北部連合会)

合計入賞率 **0.08077**



最強の最高傑作!
和製カニバル」に爆誕!

「APこそ最高のレース鳩」をモットーとしてビジョンスポーツに打ち込み、連盟最強と謳われる**吉野喜一鳩舎(埼玉北部)**に「最高傑作」と言わしめた「銘鳩」が誕生した。それは自身にとって2羽目の日本AP賞——「**22HK00269**」である。Rg、地区N、桜花賞全て総合シングルを収め、会長賞、KBDB会長賞、AP賞の3タイトルでも連盟1位を獲得しており、まさに再現不可、かつ納得の翔歴だ。ちなみに同賞による規程レースオールシングルでの受賞は、ほんの一握りしか存在していないことも追記しておこう。

***令和5年度KBDB会長賞連盟1位、会長賞**
 ▶20HK05505 B 吉野喜一作
 直仔/21年秋130K2位、5位
 →NL16-1802825 B ヘンドリクス作
 「ビューティーハリー」(下記「ハリー」×「カニバル」近親)×
 「ハリー」(09年WHZB長距離ナショナルAP賞1位)の孫
 →「AAA、ハリー」18HK11222 B
 別府康史作 吉野喜一使翔
 18年秋連合会AP賞1位他シングル多数
 上記「ハリー」の曾孫×純ガビー・ファンデナベール
 →B17-6147432 B ファンダイク作
 →B15-6091264 BW
 ガストン作(ドルダン優勝/「カースプール」の曾孫)×
 ゲレN5位(KBDB中距離ナショナルAP賞1位「カニバル」の孫)
 →B14-6241273
 ノヨン優勝7回(上記「カニバル」の孫&近親×孫/「ランポー」4重近親)×
 レオ・ヘレマンス作(「オリンピックアード003」の孫)

吉野鳩舎の信念の権化「22HK00269」は、自鳩舎の飛び筋「キイチ系」ではなく、両親ともに異血だ。といつても「CHからCHが生まれる」を象徴する然るべき血統背景となっており、かつその素材は、まさに現鳩界の主流! 父親はただいま日本鳩界で大ブームとなっている「ハリー」の3重近親で、かつ「ニューハリー」(*万羽レース優勝2回)というスーパーAPを生み出した銘種鳩「ビューティーハリー」の孫でもある。これに対して母親は2億円以上の値がついた「ニューキム」を生み出した「カースプール」、KBDB史上最高のナショナルAP賞「キツテル」と「リンシア」の大元、レオ・ヘレマンスの「オリンピックアード003」、そして最も血量の多いのが、ロードホフやコプマンといった超強豪たちにも絶大な影響を与えたファンダイクの「カニバル」となっており、ともあれベルギーが誇る鳩王国・アントワープのAPあるいはAPメーカリーの血で固められたものだ。結果的に「22HK00269」は、雄種強勢の「近親(「ハリー」)×別の近親(「カニバル」)」となっており、ブラッドスポーツの法則で作出されている。しかし「ハリー」の系源が「カニバル」と捉えれば、9重にわたる近親交配! ゆえに逆三角形、丸太のようなボディ、主翼を巻くような姿勢は、源鳩の影響が強いのは明らかだ。和製「カニバル」ここに誕生——といったところであろう。



“サンキューKN・406号”

22HA09406 B ♂ 鈴木隆志鳩舎作 鈴木・大内ロフト使翔

23年春茨城連盟Rg 358K4,501羽中総合108位

入賞率 0.02399

茨城連盟地区N 551K3,692羽中総合 97位

入賞率 0.02627

茨城連盟桜花賞899K 767羽中総合 24位

入賞率 0.03129



左が鈴木隆志氏(作出者)、右が大内功次氏。



22HA09406 鈴木・大内ロフト (茨城連盟・茨城北連合会)

合計入賞率 0.08155



*令和5年度KBDB会長賞連盟2位

- ▶ 16BA03131 B 工藤昇作
- ▶ “GN下関号” 03BA06085 B 館春義作翔
- ▶ 07年東北北部ブロック連盟下関GN1209K総合優勝
- ▶ グロンドラース・モスキート各系× (並河ラインB×並河ヤンセン系)
- ▶ 07DA60888 B オリンポスロフト作
- ▶ “ランボー”(ファンダイクの源鳩の父)の直仔× 上記“ランボー”(“カニバル”の父)の孫
- ▶ 16HA04672 B 鈴木・大内ロフト作翔
- ▶ 17年GP総合58位、地区N総合28位
- ▶ 全兄弟の直仔/17年地区N600K総合優勝
- ▶ 06HB18712 B 大関光市作
- ▶ “稚内レインボー81”(01年東日本稚内GN総合2位)の孫
- ▶ 10HB00627 B 斎藤・岡部作翔 鈴木・大内ロフト源鳩
- ▶ 700K連盟2位 ファンブリアーナ系
- ▶ 孫/16年秋Rg400K総合優勝

地元の先輩後輩の間柄であり、お互いに学生時代にレース鳩の飼育経験のある2人——鈴木隆志と大内功次両氏からなる**鈴木・大内ロフト**(茨城北)は、結成1シーズン目(*16年秋)にしてRg総合優勝を達成。全国的に見ても多くの強豪、そして大羽数を擁する茨城連盟の舞台で華々しすぎるデビューを飾る。その後も総合優入賞を重ね、21年には日本優秀鳩舎の規程をクリア。その実力と勢いはまさに昇り竜の如き——だ。そして今年、2人は「入」と「レース鳩」、その双方で全国レベルに到達する。うち後者が、日本

2つの全国を射止めた
昇り竜の会心作!

AP賞の受賞だ。

全国8位に選出された「22HA09406」は、前者となる「日本優秀鳩舎賞」獲得のポイントゲッターとして活躍し、Rg、地区N、GPを対象とした連盟のAP賞で3位に選出された、まさにゼネラリストの理想形だ。

父親が実距離1200Kを超えるGNで総合優勝した「GN下関号」にファンダイクの「カニバル」(*96年KBDB中距離ナショナルAP賞1位)を經由した「ランボー」(*源鳩)の近親をクロスしたトリ。作出者である故・工藤昇鳩舎(青森中央)は生前、鈴木氏の兄と仕事仲間、「弟が長距離で悩んでいる」と相談したところ、快く提供してくれたのがこの1羽だったとのことだ。

これに対し母親は、2人にとって地元の先輩にあたる故・大関光市鳩舎の会心作「稚内レインボー81」の孫に同じく地元の強豪である斎藤・岡部鳩舎(茨城北)の「ゴールドファンブリアーナ」で、前述のを含め鈴木・大内ロフトの快進撃の原動力「10HB00627」とで交配——と、ともあれ茨城県で実績を残した勝ち筋の集合体だ。

ハイブリッドとなるこの交配だが、18年からスタートした後、距離を問わずに活躍鳩を量産。今回の日本AP賞の受賞によって、当たり前は確定であろう。そして2つの全国をもたらしたこの「22HA09406」は、2人にとっても「宝物」になったことは間違いない。

“レディクワトロ号”

22HL04639 B ♀ 杉山弘紀鳩舎作翔

23年春埼群連盟Rg 497K1,166羽中総合52位

入賞率 0.04460

埼群連盟地区N 713K 741羽中総合16位

入賞率 0.02159

埼群連盟桜花賞937K 302羽中総合 9位

入賞率 0.02980



22HL04639 杉山弘紀鳩舎
(埼群連盟・ニュー埼玉東部連合会)

合計入賞率 0.09599



自系統とAPの塊で作られた
「THEエースビジョン」!

ヨーロッパの輸入系を駆使し、実績を重ねてきた実力派・杉山弘紀鳩舎(ニュー埼玉東部)は、今年協会最高賞である「日本優秀鳩舎賞」を獲得し、待望の全国デビューを果たした。そのポイントゲッターを務めた「22HL04639」もまた全国行きの切符を手にし、「レース鳩の最高賞」日本AP賞を受賞。全国9位に選出された。しかも同賞全国7位鳩と同じく、「会長賞」「KBDB会長賞」「連盟AP賞」でも堂々1位に輝いており、まさに「THE AP」である。

ハイブリッドでの配合となるが、血

*令和5年度KBDB会長賞連盟1位・会長賞

- 20HL08379 B 杉山弘紀作
- 12HL04032 B 杉山作 “De03デブークト”(“ママ”の孫)の直仔
- 14HL06651 BW 杉山作 直仔/春Rg400K総合優勝
リーンプーア系近親×
(上記“De03デブークト”×上記“ママ”の孫“De01デブークト”)
- 17HL06493 B 杉山弘紀作翔 18年GP700K総合4位・連盟優勝
- 11DA34961 BC 杉山作
- “オリジンマルセ”B04-6158374 BC A・マルセリス作
“ドンケレ18”(3年連続AP賞1位)の近親
- “ドルダンスケ142”B03-6105142 BC ドールダン優勝
- 13DA41142 B 杉山作 “シシー”の重近親
- B09-2040531 BC イェスベル・ファンデウエーゲン作
母/“クライネディルク”(“ランボー”の曾孫)×
“フルール”(“エースフォー”の直仔×“エースフォー”の孫)
- 10HL07926 B 杉山作翔 10年秋300K5,199羽中総合優勝
“J191”(“インヴィンシブル”の娘)の娘

量が最も多いのは“De03デブークト”と“シシー”だ。前者はガストン・デブークトの作出鳩で、KBDB長距離ナショナルAP賞“ママ”の孫鳩。直系には地元のエースに加え、国際鳩舎でもあまたの優入賞鳩を輩出しており、杉山鳩舎において第1の源鳩である。そして別の“ママ”の孫——“De01デブークト”を絡ませて、3重近親にしたのが「22HL04639」の父親というわけだ。

後者(“シシー”)は、ガビー・ファンデナベールの源鳩“グライネン”の孫鳩であり、アド・スカラレーケンスの代表種鳩として有名であろう。そして受賞鳩の母方祖母には“シシー”の直仔である “インヴィンシブル”(“00年NPOナショナルAP賞2位”)が、そして孫にあたる “エースフォー”(プロヴィンシャルAP賞1位)を経由して、少なからず4重にわたり血層を重ねていることが確認できる。

またこの2筋以外にも17年に日本AP賞全国1位とKBDB会長賞の二冠鳩を生み出した実績を持つマルセリスの“ドンケレ18”、また前述の“シシー”の近親系(“ブルー”)とで黄金交配を組んでいる “グライネディルク”が、ファンダイクの源鳩“ランボー”の曾孫だ。まさしくAP作りの素材として最高峰というわけだが、いずれも杉山鳩舎においてライン化された “勝ち筋” である。つまり「22HL04639」は自系統の結晶というわけだ。ゆえにこの1羽の誕生は、作翔者冥利に尽きるものであろう。



20LB07252 B ♀ 小川正雄鳩舎作翔

23年春千葉連盟Rg 450K1,447羽中総合51位

入賞率 0.03525

千葉連盟地区N 581K 759羽中総合24位

入賞率 0.03162

千葉連盟桜花賞912K 161羽中総合 5位

入賞率 0.03106



20LB07252 小川正雄鳩舎
(千葉連盟・京葉連合会)

合計入賞率 **0.09793**



***令和5年度KBDB会長賞連盟2位**

- 20LB07256 B 小川正雄作
- “紅フォッペ” 14LB07892 RC 田久保政二作
- 12HA04040 B 一文字ロフト作
- “フォッペ”×(“バルセロナランボーII”×“バルセロナキム”)
- 12LB02357 BC 中台幸男作
- “ターザン”(93年バルセロナN90位)の直仔×孫
- 11HR06059 B 塙義則作 *ド019直系×フーベン父子系
- 20LB07223 B 小川正雄作 全姉妹/500K優勝 他入賞多数
- 14MA00140 B 植草作
- B07-6363600 B ファンダイク作
- 母/“カニバル”×(“ランボー”の父×“ランボー”の母の同腹)
- B07-6039914 BC ファンダイク作
- 上記“ランボー”の孫×“カニバル”全兄の曾孫
- 直仔/15年度八郷・国際サクセス200K優勝
- 12LB08884 BC 小川作
- アイヤーカンプ作(ヤンセン系)×“シャンテリー”&“ド019”近親

**欧州との交流は伊達ではない！
鳩友のヤンセンで日本AP!**

日本AP賞最後のイスとなる全国10位に選ばれたのは、**小川正雄鳩舎(京葉作翔)の「20LB07252」**である(※21年生まれ)。小川鳩舎は鳩歴60年の大ベテランで、ヨーロッパ鳩界に造詣が深く、世界鳩界のレジエント・ヤンセン鳩舎を訪れたこともあるとのこと。ちなみにその時頂いたというサインは、良き思い出として、小川鳩舎の下に大事に保管されている。

このように欧州鳩界との交流によって時代、時代の銘系を手にしていく中、中距離を主体でビジョンスポーツを楽しんできたとあって、ローセンス系、グロンド

レース系、そして小川鳩舎の鳩友でもある“デルマン”の飛び筋が3本柱。そしてこの度全国デビューを飾った日本AP賞は、デルマン経由のヤンセン——最後のCHジャンテリー(※89年ジャンテリー優勝)の近親(孫×孫)が、16分の1だが絡んでおり、小川鳩舎にとつて感慨深いものとなったようだ。またヤンセンを抽出してみると、父方祖母、母方祖父にも絡んでおり、掘りに掘り下げてみると、「20LB07252」は、ド019(※優勝18回)の戻し交配となっている。

その他、鳩友の田久保政二鳩舎(京葉)の作出である父方祖父からは、「フォッペ(※07年ポーン優勝)」、「バルセロナランボーII(※04年バルセロナIN優勝)」、「バルセロナキム(※08年バルセロナIN優勝)」といったヨーロッパ王者とファンデウエーゲンの代表鳩「ターザン」の血が流れ、また母方祖父の植草鳩舎作にはファンダイクの源鳩「ランボー」の血が「カニバル」などを介して少なくとも3重になっていることが確認——と、銘血の塊といったところだ。その一方でヤンセンや後者のAPの血(※ファンダイク)で見れば、「廻り」によつての覚醒とも捉えられる。

真に優れたレース鳩と言えるAPとあって、血統がものをいうということが、この1羽のように他の日本AP賞でもAPが素材となっている場合、3代以上離れているパターンが多い。つまり、「APの血」とは時空を越えて何度でも——ということなのであろう。